



〈 解 説 〉

ユズリハ

(トウダイグサ科ユズリハ属の種、漢字：讓葉、親子草、学名：*Daphniphyllum macropodum* Miq., 中国名：交讓木)

この種は常緑樹で葉は長楕円形、長さ15~20cm、幅4~7cm、厚く光沢があり、枝先に輪生状につきます。樹高5~10m、胸高直径20~30cm程度ですが、時に15m、60cmにもなります。天然の分布は本州中南部、四国、九州です。また、この種の変種として、樹高3m以下の低木で、這う形で中国地方以北の日本海側、北海道にまで分布するエゾユズリハ (*D. macropodum* var. *humile*) があります。これは雪の重さに耐えるために変化したものと言われています。

この写真は、工学部正門近く繊維博物館の入り口に生育しているもので、このように庭木としても植えられます。材は箱、漆器木地、小細工などの器具類の材料に使われます。また、この樹皮は駆虫剤や染料としても利用されたそうです。

この種は若葉が伸びてから古い葉が散るのが特徴です。一時期、共に枝にあり、若い葉が十分に成長したのを見届けて？交代する。このことを親子相続になぞらえて、めでたい植物として正月の飾りとされてきました。